

# 求められる道 薬剤師への

あなたが目指す薬剤師と生涯学習

## ◆ 薬剤師認定制度認証機構(CPC)

今春、いよいよ初の6年生教育を受けた薬剤師が誕生します。薬剤師を取り巻く環境は大きく変化を迎えようとしており、薬剤師に対する社会的要求と期待も今後ますます高まっていくであろうことは想像に難くありません。このような時代の中で、より信頼される薬剤師になるためには、生涯研修に取り組み職能の向上を目指すのが唯一の方法ではないでしょうか。

本コーナーでは、薬剤師認定制度認証機構(CPC)が2012年1月にホームページ(<http://www.cpc-j.org/>)で提言した薬剤師生涯学習の必要性和今後の展望についてご紹介します。

### 薬剤師認定制度認証機構(CPC)と生涯研修

薬剤師が生涯学習に取り組むためには、まずはその環境を整えることが大切です。CPCは、薬剤師に対して行っている各生涯研修プロバイダーの生涯学習と認定制度を第三者評価する機関であり、申請のあった研修・認定制度について認証する制度を導入しています。

生涯研修プロバイダーは、薬剤師なら誰でも受講でき、その研修成果を認定する制度で、2012年2月現在、CPCにより17の生涯研修プロバイ

ダーが認証されています(表)。CPCは優れた研修認定制度を認証し公表することによって、薬剤師の資質および専門性の向上に寄与することを目的としています(生涯研修認証プロバイダーが実施している研修閲覧サイト<http://www.ninteyakuzaishi.com/>)。

6年制教育の第1期生の卒業を目前に、CPCでは、2012年1月ホームページ(<http://www.cpc-j.org/>)に『「求められる薬剤師」への道程(図1)』と『薬剤師生涯学習の在り方と現況(図2)』をイメージとして表し、薬剤師生涯学習の基本的考え方についての提言としました。

表 生涯研修認証プロバイダー一覧

(2012年2月現在)

プロバイダー	認定制度名
① 財団法人日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師制度
② 東邦大学薬学部	生涯学習認定制度
③ 一般社団法人薬剤師あゆみの会	生涯研修認定制度
④ 慶應義塾大学薬学部	認定薬剤師研修制度
⑤ 一般社団法人イオン・ハビコム人材総合研修機構	認定薬剤師研修制度
⑥ 明治薬科大学	認定薬剤師研修制度
⑦ NPO 法人医薬品ライフタイムマネジメントセンター	医薬品ライフタイムマネジメント(DLM)認定薬剤師研修制度
⑧ 神戸薬科大学	生涯研修認定制度
⑨ 社団法人石川県薬剤師会	認定薬剤師研修制度
⑩ 新潟薬科大学	生涯研修認定制度
⑪ 北海道薬科大学	生涯研修認定制度
⑫ 星薬科大学	生涯研修認定制度
⑬ 一般社団法人昭薬同窓会・平成塾	生涯学習認定制度
⑭ 学校法人医学アカデミー薬学セミナー生涯学習センター	生涯学習認定制度
⑮ 一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会	プライマリ・ケア認定薬剤師制度
⑯ 北海道医療大学	北海道医療大学認定薬剤師研修制度
⑰ 埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター	生涯研修認定制度

図1 「求められる薬剤師」への道程

目標	『真に人と社会に役立つ』
行動	薬剤師一人ひとりが、薬の倫理を基盤として、あらゆる場面で、正しい評価・判断に基づく最善の行為を、責任をもって実践する
職能	行動を支えるのは専門職として活動する能力 専門職としての能力を養うのは生涯研修等による自己研鑽

社会の求めている人材は  
卒後の生涯研鑽  
によって作られる

#### 薬剤師生涯学習の在り方

- 必須基盤は、ジェネラリストとして、総合的職能向上を目指す「生涯研修」。
- 常に進歩している医療と薬物療法・医薬品に対応できる能力の獲得が必要。

- 特定の領域についての、重点的な学習や専門性を深める学習により、地域医療やチーム医療の中で、求めに応じて能力を発揮できることが必要。
- 研修内容と成果の質を保証し、社会からの信頼を得るための、評価・認証の仕組みが不可欠。

#### 薬剤師生涯学習の基本条件

総合的条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 継ぎ目な目で、生涯にわたって継続する学習。</li> <li>▶ 教える者でなく学ぶ者の意向が優先する(大学教育との差異)。</li> <li>▶ CPDサイクルの実践</li> </ul>	学ぶ者の心掛け	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 自己診断から始め、目標(キャリアパス)を定め、計画的に学習する。</li> <li>▶ 研修の質を確かめ、習得度を自己評価し、次の研修を選択する。</li> <li>▶ 自らの職能向上と実務への反映が学習の目的である。資格(認定証、称号等)の取得は、手段としては大切だが目的ではない。</li> </ul>
学びの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 時宜にかなった、質の高い研修が、各地で計画的に提供される。</li> <li>▶ 研修の企画に当たっては、受講者の意向が反映されるよう留意する。</li> <li>▶ 実施者は受講結果を確認し、受講歴を明白に示す受講証明(単位)を付与する。</li> <li>▶ 学習意欲に応えられるように、遠隔研修、IT研修等が整備される。</li> <li>▶ 認定制度については、客観的評価(第三者認証)を備えていることが必要。</li> </ul>	記録と効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 学んだ者は、自ら学習記録(ポートフォリオ)を作成し、履歴と成果を確認する。</li> <li>▶ 組織や職場の指導的立場にある者は、学んだことが報われる環境を作るように努める</li> </ul>

CPCホームページより一部改変



## 求められる薬剤師となるために

図1は、薬剤師が社会あるいは国民から求められる存在となるために持つべき「目標」、「行動」、「職能」を提示し、そこに到達するための生涯学習の在り方や基本条件、望ましい活動環境を示したものです。

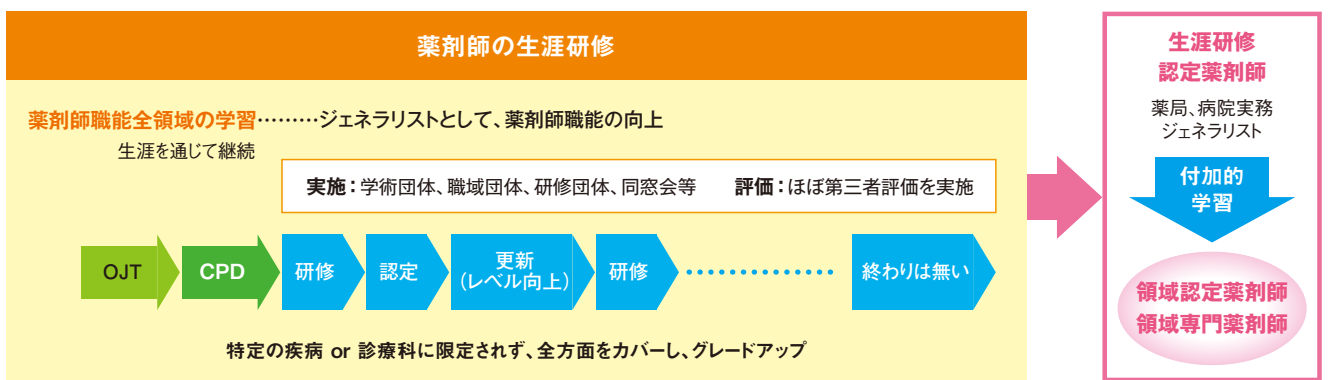
生涯学習の在り方については、あくまで必須基盤はジェネラリストと

しての総合的職能的向上を目指すこととしています。特定の領域についての専門性を高める学習、特定領域認定制度の認証に当たっては、ジェネラリストとしての設定要件を満たしていることが条件となります。

学習者自身が自己査定→計画→受講→評価→そして評価結果を次の計画に反映させるというステップ

をCPD (生涯職能向上: Continuing Professional Development) サイクルといえます。学習者がこのCPDサイクルのポートフォリオ (自らの学習記録) を作れるか否かが、この生涯学習の成否を分ける重要なポイント。ポートフォリオは、自身の学習の経緯と成果を確認するための、いわば薬剤師にとっての「お薬手帳」のようなものです。

図2 薬剤師生涯研修の在り方



CPCホームページより一部改変

## 生涯学習で繰り返されるステップとは

図2は、生涯学習の進路と、薬剤師本人の能力、資格・名称などの変遷を示したものです。薬剤師の生涯学習には、法規制や行政上の具体的な取り決めがなく、自身の自己管理に任されています。よって薬剤師の資質向上と信頼性の確保には、生涯学習の義務化もしくは薬剤師免許更新性が最も効果的であり、その実現が将来の目標だと設定されています。

生涯学習は職場での実地訓練(OJT)からはじまり、自己管理によるCPDサイクルの実践へと続きます。CPDの進行に伴って生涯研修認定制度の実施機関から学習記録の証明を受け、「生涯研修認定薬剤師」となるのです。また、専門領域に関してはまた別途のカテゴリーとして「特

定領域認定制度」(表の⑦、⑮)および「専門薬剤師認定制度」が設定されています。ただし、この制度は生涯学習認定制度を受けていることが前提となります。

## 質の保証された生涯研修で医療貢献を

生涯研修は、決められた過程に沿った大学教育とは異なり、自らの業務上の必要度や興味、あるいは能力の程度に応じて自分で選んで受けることのできる学習です。選んだ研修によって得られるものも違ってきますし、長く続けている間にその差も大きくなっていきます。よって、信頼できる良質の研修プログラムを選ぶことが生涯研修を活かす鍵となります。

自らの責任と義務を認識し、常に薬剤師として仕事を果たすうえでの

成長を図るためにも、自らの能力と適性を高める生涯学習はこれから先も欠かせない要素となることは間違いのないでしょう。生涯学習の成果は、本質的には学習者本人の意識と実践にかかっていますが、生涯研修を提供する機関の役割も、生涯学習の成果を左右する要素として大変重要です。生涯研修の質の良し悪しは実施団体が決めるといっても過言ではありません。その生涯研修の内容が独りよがりにならないためにも、第三者評価によって基準に適合する優れた薬剤師生涯研修の質を保証し認証する制度が必要なのです。目的を見誤らずに関係者が納得する正しい評価をくだし、生涯研修と実務活動に関する将来性あるアイデアや人材などを失うことのないよう、適切な判断をすること。それがCPCの存在意義といえます。